

地域密着型サービスの自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	施設利用者がこれまでの人生の中で培ってきた人格や価値観を今後も維持できることを念頭に、独自の理念を掲げ目立つ場所に掲示している。毎朝引き次が終わった後職員揃って唱和し、気持ちを引き締めて業務へ取り組んでいる。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念から受け取る意味や意義を互いに共有しあい、その実現にむけて取り組んでいる。定期的に昼食後の休憩時間や施設利用者の就床後などに職員間でミーティングの時間を設け、改善案やその日の反省などを話し合い、理想とするホームの実現に向けての足がかりとしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	定期的な運営推進会議の実施により地域の方々との連携を図るとともに理念の周知を行っている。家族などに対しても密に報告、連絡、相談をしながら理念への理解と協力をして頂けるよう進んで取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地元の方々にとって、「グループホーム」というものが、馴染みが浅いため、広報活動などを通じて周知を図っている。施設に連想されがちな閉鎖的な雰囲気や敷居を払拭するよう、間口を広くし施設周りを花々で飾るなど、華やかで解放的な空間作りを心がけ、安心して立ち寄って頂けるよう努めている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元や隣接地区で行われる様々な行事へ、積極的に参加し交流をしている。また近隣地区の中学生の社会学習での訪問や見学を積極的に受け入れるなどし、地域との繋がりを深めるよう日々働き掛けている。	○	地区の花畑の草取りなどに参加する予定であったが、まだ実現していない。歩ける人だけでも2,3人連れて参加して行こうと思う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地元消防団と避難訓練をした際、こちらからも介護を通じて培ったスキルや情報を提供をしている。また、地域活動を通じ参加されたお年寄りの方々に健康面でのアドバイスや行動補助などをさりげなく行っている。これからもさらに地域のお年寄りとの親睦を深め、良い相互関係を築きあげたい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ全員で自己評価に取り組むことで、日頃のケアについて立ち止まって考える事ができ、より良いケアに繋げている。また、第三者から評価をされることで、内部からは見えなかったことを確認することができ、具体的な改善へと取り組む指針として活用している。	○	今の質を継続していける様に内容の再確認を行なって行きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行う運営推進会議では、利用者の活動内容を写真付きの資料で報告し、それに対する意見や感想から今後のサービスの向上に生かしている。討議内容については管理者から職員に報告され、全員が情報を共有して行動に繋げている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの広報誌である「逍遙日和」の配布や毎月開催されるケア会議に出席して、利用者や施設の状況を担当者に報告し、認知症についての理解と協力をお願いしている。また施設長が町の介護保険事業計画策定委員になっており、町の様々な役員の人達と現状と今後の取り組など話す機会がある。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	施設利用者の中で、実際に権利擁護を利用されている方がおり、成年後見制度の適用についても検討をした。全体会においては二つの制度の目的や違いを学び、職員それぞれが把握している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、定期的に全体会や研修などで虐待に関して学び、ふとした事が虐待とにならないか日頃より注意を払っている。常日頃利用者の観察を行うことで、見過ごされることがないように虐待防止の徹底に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際には、施設長とケアマネージャーが立ち会い、ゆっくりと時間をかけ説明している。できるだけリラックスして質疑しやすい雰囲気を作るようにしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会があった際には出来る限り家族だけの時間を過ごせるようにしている。いつでも電話で外部との連絡を取れるようにし、利用者が不安や不満を解消できるように努めている。又、定期的に施設利用者に対して、暮らしを続ける中での不満や悩みなどが無いか何気ない会話の中で伺っている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月毎に出納帳の内訳と近況報告を写真と共に各家庭に送っている。又定期的に通信で利用者の季節の活動状況を報告し、面会で来訪された時には、出納帳を見て頂きサインを貰っている。金銭管理トラブルを避けるためにも充分気を付けて行きたい。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を設置しており、いつでも苦情を受け付けられる体制を確立している。又、玄関には気づきポストの設置、メールアドレスの公開などし、苦情や不満などを匿名で投書できるよう工夫している。9月には家族会を計画中(9/23)パーティ形式にて意見の出し易い会にして行こうと思っている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り簿を設置し各職員の意見、提案を聞き取り職員個人が運営者及び上司に意見を提言しやすい様な開かれた環境作りに力を注いでいる。年に二・三回食事会を行い(社長・施設長同行にて)意見や提案を聞いている。今後も続けて行きたいと思う。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	認知症ケアという職業柄状況の変化で勤務体制が変動する事は全職員が理解しており、状況に応じて適宜勤務時間の調節をするなどし、柔軟な対応ができる体制が確立されている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の混乱を防ぐ為にも異動は極力しないようにしている。止む得ない異動、又離職がある際には事前に利用者に伝え変化に対する影響を最小限にするよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には研修を積極的に受講させ「質の向上」に努めている。全体会や日常業務の中でも指導を行い、各職員のスキルアップを目指している。職員相互による研磨にも、もっと力を入れて行きたい。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地区に在する関係施設とは歌謡ショーや夏祭りなどの季節のイベントを通じ交流を頻繁に行っている。姉妹施設となるグループホーム鶴嶋とは定期的に行き来をして事例発表や意見交換など情報を交換することで互いにサービスの向上を図っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は職員個人を取り巻く環境に深く配慮しており、生活や仕事で受けたストレスを軽減するための環境づくりに理解ある態度を示している。又、年に数回慰労会を兼ねた親睦会を行っている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎月の全体会で、各自が担当する利用者への対応例を発表しあい、その対応が適切か否かをみんなで話し合うことで更なる向上心を高めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○	今までの生活環境を知る為に、ドライブをかねて自宅周辺を訪問している。その事によりその方の不安を取り除く声掛けに役立っている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	○	入居者さんへの感謝の言葉・態度は日頃より伝えていくが、表面上だけのものとならぬ様に気を付けて行きたい。職員が楽しめば入居者さんも楽しんで頂ける事を常に受け止めて行く。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族からの要望を受け入れながらも状況によっては協力を依頼し、本人と一緒に支えていく関係作りに努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族からそれぞれこれまでの暮らしの様子や家族又は親族との関わりを慎重に聞き取り、互いの気持ちを考慮した対応、声掛けを行い、より良い関係を維持していけるよう配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のこれまでに培った友人関係や思い出の場所を大切にする為、定期的に手紙や電話などで連絡を勧めたり思い出の場所にドライブで訪れるなど、支援に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日頃から利用者同士の相性などの把握に努め、場合によっては職員が介入するなどし、利用者それぞれが孤立や対立なく円滑にコミュニケーションできる環境作りに努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご家族の事情にもよるが、サービスの契約が終了しても継続的な関係が続く事例が実際にある。そういった関係が築けることこそ福祉サービス業の本懐だと全職員が自覚している。他施設へ移られた後も年に1・2回訪問(花を持参)をし、家族より感謝されている。今後も継続して行きたい。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が望む暮らしを送れるよう随時アセスメントを行いケアプランに反映させている。困難な場合にもできるだけそれに近い暮らしを提供できるよう職員間で協議するなどし臨機応変に対応できるよう励んでいる。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	定期的に過去の調査記録を参照し現状と比較検討している。また利用者の日常動作に少しでも違和感を感じたら過去の介護記録から現状との違いを見つけ出すなど状況の変化を見逃さないよう気をつけている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	カンファレンスにおいて担当する利用者の個別の状況を報告して、心身状態に変化が観られる方については繰り返し検討を行いケアプランに即時反映させている。情報は記録簿に記され共有している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	アセスメントの際に本人家族から当ホームでの生活希望、要望を聞き取り、日常の中で気付きや利用者が発した言葉などケアマネに職員より常時情報提供を行っている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて介護記録の見直しを行うとともに、万が一対応できない変化が生じた場合には、本人、家族、関係者に伝え、緊急カンファレンスを開き必要に応じた新しい計画を練り直している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の利用者の様子は介護記録簿に細かく記載され情報の保存及び共有化を行っている。その情報から本人の状態の変化を早期に発見したりケアプランの見直しに活かすなど多いに活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	QOL向上の為にできるだけ要望に沿った形で支援を行っている。家族が泊まられたり家族との外出、外泊も可能な限り行っている。その際は本人の健康状態を第一優先とし、不安がある時には家族や担当医と相談している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的に地元の消防団による防災訓練や交通安全指導員による交通安全の指導、関係機関主催による歌謡祭や踊りの慰問、また近隣地区の学校から見学や体験学習など様々な機関と協力しながら支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	月のケアマネ会及びケア会議に参加し他の施設のケアマネジャーと意見交換やケース検討会を行っている。また本人の希望や必要性に応じてリハビリや馴染みの美容院を利用するなど各サービスを利用するための支援をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	日頃から地域包括支援センターと情報のやり取りを行い、本人が安心した生活を送れるよう連携を取っている。また運営推進会議においても毎回出席され様々な意見を頂くなど協働関係が築けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望を尊重しながら家族の意見と合わせ信頼のおける医師を担当医とし、適切な医療を受けられるよう支援している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	本人の希望を尊重しながら家族の意見と合わせ信頼のおける医師を担当医とし、適切な医療を受けられるよう支援している。地域にある唯一の病院へ定期的な受診、また臨時の受診には職員が同行し、家族への報告まで行っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員には日々のバイタルの変動から全身状態の観察、細かい変化など気付いた点は法置くし処置や留意点などの指示をもらっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院された場合は、本人の状態を考慮した上で早期退院に向けての相談や協力を医療機関と行っている。入院中は頻繁に面会に行き、食事介助や衣類の洗濯などをし、優しく語りかけるなどして利用者の不安を和らげるよう努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時には家族から終末期の希望要望まで聞き取りを行い、アセスメントに記録を残している。また身体の重度化、病状の悪化が進んだ際にもその都度確認し、希望に添えるよう対応している。本人からの確認は、生活の中で慎重に聞き取ることでメンタル面を過敏に刺激しないよう配慮している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	職員間での話し合いにて介護面での充実化は実践出来ているが、医療面においては病院との数回に渡る話し合いでも不可能な部分があり、最終的に家族の希望もあり病院で最後を迎えられた事例がある。	○	職員一人一人のターミナルケアへの知識と技術、精神面の向上に努め、病院からの協力を得られる体制を整えて行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境の変化に伴う心身状態の不安定を留意し、情報提供書や電話などで十分な情報交換を行っている。また転所後、担当ケアマネや家族より様子を聞き必要時には、アドバイスを行ったり面会に行く事など行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の名誉を守り尊重するよう、言葉かけや対応の仕方に常々配慮している。対応の仕方に疑問を感じた時などは、ミーティングで議論し適切な対応や声掛け方法の研磨に努めている。個人情報や管理者の指示で厳重に保管し、外部に漏れ出さないよう徹底した管理を行っている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定はQOLの向上には不可欠と考えており、生活の中でも献立の本と一緒にしながら食事の希望を聞いたり、衣類と一緒に買いに行くなど意思決定の場面を作りだすよう工夫している。個人の思想や信条を大切にすると共に、一人ひとりが思いや希望を表わせるような関係作りに努めている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースや価値観は人それぞれであり、その日の体調や気分でも変化するので、職員や他の利用者に合わせるのではなく、可能な限り本人のその日の希望にそって支援するよう心掛けている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人の希望に沿って馴染みの理容・美容室へと行けるよう支援している。家族と相談のうえ、季節毎に衣類を新調したり、外出の機会を増やす事で本人のおしゃれに対する意識の向上を高め、おしゃれをして喜ぶことが若々しさや生きがいに繋がるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に本人より飲食の好き嫌いを聞き取り、食事を楽しめるようバランス良くレシピを工夫している。調理に関しては基本的に職員が一任しているが、野菜の下処理、テーブル拭き、料理の盛り付けなどで利用者のお力をお借りしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	健康に気を遣いながら、本人が望むものを状況に合わせてお出ししている。たばこやお酒などはお預かりさせて頂き、身体状況を考慮した上で本人の希望に沿ってお出しするようにしている。またそれらの嗜好品は注意して保管するよう徹底されている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	常日頃排便チェックシートでチェックを行い、個人の排泄パターンを読み取るよう努めており、トイレへ自力で向えない方には定期的に声かけし、気持ち良く排泄をしていただけるよう支援している。声を掛ける際、本人のプライドを傷つけないよう配慮した声掛けの対応を心がけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりその人にあった時間帯の入浴や気が合う人と一緒に入浴するなど利用者本位の入浴支援を行っている。介助時に一緒に唄を歌ったり、入浴剤や季節毎に菖蒲やゆずなどを浮かべ入浴を楽しめるように支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼食後口腔ケアの後に軽く休息の時間を取るようにし、心身のリフレッシュを図っている。夕方にはベランダで夕涼みをし穏やかな雰囲気にして自然に就寝へと向かえられるよう季節によって様々な工夫をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活において、利用者一人ひとりがそれぞれに役割や楽しみごとを持って暮らせるよう配慮している。猫の世話係や蠅たたき係りなど、嗜好や得意分野を生かした役割りが自然と確立されており、職員も常に感謝の声掛けと労をねぎらい充実した楽しい生活を送れるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に 応じて、お金を所持したり使えるように支 援している	家族の了解を得た上でおこづかいの一部を本人に 管理保管するようお願いしている人もいる。一部 が手元にあることで安心されており、また必要時 には預かったお金から買い物時やお参りの際のお 賽銭として使えるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひと りのその日の希望にそって、戸外に出かけ られるよう支援している	天気が良く穏やかな日はドライブに出かけたり、 買い物へと一緒に付き添って頂くなどアクティビ ティケアの一環としても頻繁に戸外に出掛けるよ う支援している。園の周りは散歩しやすいよう日 頃より整備し散歩をしながら豊かな自然環境を満 喫できるようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けな いところに、個別あるいは他の利用者や家 族とともに出かけられる機会をつくり、支 援している	年間行事として積極的に花見、ドライブ、お祭 り、ふるさと訪問、墓参りなど随時ご家族や外部 の方の協力を仰いで実施している。先日は全員参 加で熊本にある動植物園へ出かけ、大変喜ばれて いた。レストランでの外食や、秋のぶどう狩りな どは、家族へも声掛けし行っている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をし たり、手紙のやり取りができるように支援を している	本人がこれまで築き上げた関係を今後も継続で きるよう支援をしている。自らの意思で電話や手 紙を書かれることは心の安定にも繋がるので日常 的に文字や絵を描く機会を設け支援を行っている。 携帯を持っている方もいて、家族に元気な声を聞 いて頂ける様に声掛けして行きたい。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人 たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地 よく過ごせるよう工夫している	ホームでは深夜帯を除いていつでも面会でき るような体制が確立されている。居心地良く滞在 できるような空間づくりを日ごろから心掛け、利 用者と一緒に写真を撮るなど、楽しい思い出の一 部を残せるよう工夫している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束を しないケアに取り組んでいる	管理者及び全職員が良く理解しており、利用者 の安全と自由を保てるよう十分な見守りとケアに 取り組んでいる。職員の人員配置を基準より多く することにより見守りを密にして、利用者の行動 をなるべく規制しないよう心掛けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の扉は防犯の為に夜間及び台風、大雨、冬場を除き常時開けられており利用者にとって解放的で安心した空間作りを心がけている。帰宅欲求から頻繁に外へ出られる方も居る為、職員はさりげなく見守ると共に常に携帯電話を携帯することで即座に連携が取れるようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に見守りと声掛けで所在や様子を把握している。その際は本人のプライバシーをそこなわないようこれまでの実践経験で得られた声掛けを行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物品の所持は一律では無く個々の希望に応じ対応しているが、危険物などに関しては全職員が把握し常に気をつけ確認し安全に留意している。縫い物をお願いする時は終わりに針の確認をし、事故の防止に努めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故の防止を行うと共に、実際に事故が起こったものの想定しての訓練を施設長や消防団のもと定期的に行っている。一人ひとりの状態に応じ対応できるよう緊張感を持ってケアをしている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	しかるべき訓練を受けた施設長より定期的に実技によるガイダンスを受けている。また隣町の消防団の方から応急手当や初期対応の訓練指導を受けている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地元の消防団や警察により被災時の避難方法や対処法などの指導を定期的に受けている。避難場所の周知徹底、及び適切な処置を十分理解し、地域の人々と協力しながら災害に備えている。また台風や大雨の際には施設長が泊まり危険の有無を確認している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居時や心身状態の変化に合わせて、その都度起こり得るリスクを家族に説明している。また担当医や看護師から指導を受けながらできるだけ今まで通り抑圧感のない暮らしを送って頂けるように努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックを毎朝行い、きちんとデータを取ることで体調の変化を把握することができ、結果によりいち早く対処をしている。日中に何らかの異変がみられた場合には速やかにチェックし状態異常の早期発見に努めている。記録は厳重に管理し、担当医、看護師と情報の共有を図っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は介護記録簿の前面に添付しており、担当職員および看護職員は各個人の薬の目的や副作用、用法及び容量について理解している。服薬後の変化の確認も慎重に行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防の為に、野菜や食物繊維、十分な水分の摂取、ヨーグルトなどの乳酸菌食品を多く献立に盛り込むなどできるだけ薬に頼らずに気持ち良く排泄できるよう働き掛けている。散歩やレクリエーションで適度に運動することで適切となる排泄パターンの確立に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内の不潔から引き起こされる全身疾患への影響や自ら磨くことや口腔刺激による脳の活性化などを職員は理解しており実践している。一人ひとりの状態や力に応じた支援を行っており、不十分な方には仕上げ磨きも行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	見た目も良く個人個人に合わせた調理法を心がけている。栄養が偏らないようバランスを良くし嫌いな食べ物があれば同じ栄養素をもった代替りの食材を使ってみるなど工夫をしている。水分は頻回に摂取する機会を設け夜間覚醒時などにも促したりして脱水予防に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症については予防と発生時の対応についてマニュアルが作成してあり周知している。外出からの帰園時にはうがい手洗いの徹底を行い、玄関に設置したアルコールで消毒し雑菌を持ち込まないよう努めている。ノロウイルスの季節には排泄物の取り扱いには特に注意して行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	日頃から食中毒予防の意識をもって調理を行っている。食材はできるだけ早く消費し、余分な残り物をださないよう工夫している。調理器具は天日の下で乾かすことで脱臭や除菌を促し、まな板はアルコールやハイターで消毒をして雑菌の繁殖を防いでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	緊急時などに車両が容易に出入りできるよう玄関周りには大きくスペースが確保されてある。周囲には花々を植えて解放的で気持ち良い空間を心がけている。玄関ではアロマオイルを使用することでリラックスして過ごせるよう工夫し、“施設らしく無さ”を演出している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の要望を積極的に取り入れながら、居心地良く生活できるよう工夫をしている。自然光を多く取り入れるよう心掛け、壁には写真や季節ごとに飾りをつけたり、冬場には薪ストーブによる癒しなど、ゆったりと落ち着いた雰囲気を出せるよう努めている。またグリーンの鉢物などを置き癒しの工夫も行っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内にはソファや長椅子などを多く設置して、それぞれが好みの場所でゆったりとくつろげるようにしている。足が不自由な方や明確に意思が伝えられない方には、その都度声掛けにて過ごしたい場所を確認するなど対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望を取り入れると共に、昔からなじみのある家具などを家族にお願いして、設置させて頂いている。部屋の入口は本人の好みの暖簾をたらし、プライバシーを保護すると共に壁に写真などを飾ったりして、居室内を明るくする工夫をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常日頃、換気には気をつかっている。日中は各窓を開けて外気を取り込むようにし、空気清浄機を常時稼働させて埃や雑菌及び匂いの除去に努めている。またシーリングファンを活用し室内の温度の均一化を図っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安全に生活が送れるようにと要所に手すりを設けたりいつでも腰を落ち着けるよう椅子を沢山設置するなど工夫している。出来るだけ利用者の目線から物事を捉え実践している。またトイレには補助板を設けスムーズに安全に排便が出来るように工夫している		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入口には解り易く本人の名前がイラスト付きで掲げており、トイレや浴室も同様に判断しやすくしている。できるだけ利用者の持てる力を引き出せるよう、自立を促している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節ごとに変化する風景を楽しめる様にと、ホームの周りに花を絶やさぬようにしている。良く晴れた日にはテラスや石造りの憩いの広場で茶話会を頻繁に行っている。ホームの周りの竹林では、春にタケノコやシイタケが採れ利用者も一緒に採る事で昔を懐かしく思い出されている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・本人重視のケア 一人ひとりの生活歴を知り生活環境を見ることでその人らしい生活の維持を行っている。
- ・施設せず解放的→職員を増員しての見守り強化
- ・いやされる空間と雰囲気にて家庭的で来訪者にも落ち着いていやされる場として喜んでいただいている。
- ・出来ること、出来ないことの見極めで一人ひとりの残存能力を十分に引き出し職員とも共同生活
- ・“ゆっくりゆったりいつも一緒”をモットーに
- ・季節毎の行事参加、山菜の収穫(しいたけの原木あり、わらび、ふき、ヨモギ、タケノコなど)野菜作り、自給自足の生活(五反の水田と畑あり)
- ・社長、施設長の方針をもとに職員一同が同じ方向を向いて頑張っている！